

第5回 花火大会検証会議

会議録

【日時】 令和7年11月19日（水）13:30～15:30

【場所】 福知山市防災センター 防災研修室

【出席者】（委員） 8名（別紙参照）

（事務局） 産業部 西畑部長

商業観光課 森田課長、田中係長

1 開会

2 開会挨拶

会 長：前回の会議では、「現地検証結果（案）」、「実行委員会、関係機関への確認事項の回答」、「実行委員会の事業報告書」、「経済波及効果分析報告」を事務局より説明を行い、花火大会が安心安全に開催できていたか、また、今後の花火大会のあり方について議論を行った。本日の会議では前回の会議を踏まえて「現地検証結果（最終案）」を事務局より説明いただき、現地検証結果を確定したいと思う。その後、今後の花火大会のあり方について、「花火大会の規模」や「市の関わり方」、「露店」など、議論すべき6項目について再度議論を行う。その後、本日の議論までの経過等をまとめた花火大会検証会議報告書（案）について、協議を行いたいと思っている。

3 説明事項

（1） 福知山HANABI2025現地検証結果（最終案）について

事務局：資料1に基づき「福知山HANABI2025現地検証結果（最終案）について」説明

会 長：説明事項（1）について、委員の方から質問やご意見はあるか。

委 員：5ページの良かった点に「リストバンドの確認を求めても指示に従わない人が見られたが、そのような人への対応も適切であった。」とあるが、最終的には従ってもらったという意味か。

委 員：第2ゲートのところで、再入場する場合かどうか分からないが、「リストバンドを見せてください」と言ったスタッフは最終的には見せてもらっていたと思うが、そのようなことをしないといけないのかという感じだった。きちんと言

って確認する対応はされていたと思い書いた。

会 長：ここは少し変えた方がよいか。少し詳しくするなど。

委 員：「リストバンドの確認を求めるような場面もあったが、対応は適切だった」ぐらいでどうか。

会 長：以上の内容でよいか。これで修正をお願いします。他に何か質問、意見はあるか。

委 員：「そのような人への対応も適切であった」では日本語表記がおかしくなるので、「リストバンドの確認を求めるような場面も見受けられたが、適切に対応していた」という表現の方がよいと思う。

会 長：他に、いかがか。

委 員：確認だが、30 ページの弁当の交換は 20 時を回ってからはダメなのかと思う。実際、時間までに取りに行けなかった方が帰りにも弁当を取りに行けなかった場合、その弁当は処分か廃棄されるのかわからないが、こちらから言う筋合いはあるのかと疑問に思うところがあるので、検討していただければと思う。

会 長：他の委員の方、意見はないか。

委 員：花火大会で事故があった原因は、露店ということで、実際、花火大会で事故がある時は大体、帰りの混雑時などで、花火が揚がっている時よりはその前後に事故が起きる可能性が高いと思う。それであれば帰りの混雑を避ける合理的な理由があつての露店営業であつたり、弁当の引き渡しを 20 時までにしていたと思う。安全面を最大限考慮しての判断と思うので、時間を過ぎても安全が担保できるのであればよいと思うが、現状においてはそれは時期尚早だと思う。

会 長：他に意見はないか。

委 員：先ほどの弁当の件はどうなのかという思いがある。安全にということは考えるが、引き換えできなかった方の残った弁当をどうするかということもある。多少、営業時間がずれても危なくなればいけるかなと思う。そこを判断するのは実行委員会だと思うが、安心安全にできるのであれば考えてもよいと思う。

会 長：他に意見はないか。

副会長：「交換時間を 20 時まで徹底するなどの対策が必要かもしれない」と書いてあるということは、弁当の引き換えは 20 時を過ぎても問題ないということか。去年のことは知らないが、弁当の引き換えがそんなに大変な人ばかりになって混雑するのか。

委 員：去年は弁当の引き換えが一ヶ所だけだったため、ものすごい列になったが、今年は分散されたので混雑はなかった。

会 長：事務局の方で何か弁当に関する情報はるか。

事務局：事務局が持っている手元の資料では、弁当を何時までに取りに来てくださという内容は確認できない。

委 員：確かに安心安全という面に関しては確認した方がよいと思うが、弁当の交換時

間はこちらが決めるものではなく、実行委員会の方に考えていただけたらと思うので、特に「20時まで」のところは削除して、安心安全な機会を検討するように伝えた方がよいと思う。

委員：弁当の引き換えについてなので、露店とは切り離して考えるべきと思う。弁当を有料観覧席で食べるのが普通なのか、帰ってから食べようという人もいるかもしれない。弁当がどれだけ後から取りに来たとか、先に取りに来て時間的に余裕があったのかというのは実行委員会に検証していただいて、適切な時間を作っていただいたらよいと思う。

会長：何か弁当に関してないか。この文言は一旦、預からせていただいて、事務局から各委員に説明していただいて、そのうえで文言は決めたいと思う。他の部分で質問や意見はないか。

委員：21 ページの露店（第2会場）の会場内の混雑状況では、所見「5店舗は丁度よい店舗数」、23 ページの露店数では、「このスペースで5店舗は多いと感じた」と書かれており、矛盾しているのではないか。

会長：これは所見なので、自分で思ったことを書いておられる。同じ方が書かれたものではないと思う。2人おられて、片方は丁度よかった、もう片方の人は、ちょっと多いと感じたということだと思う。確かに矛盾はしているが、両方とも評価はCで要改善ということになる。自由記載で書かれている内容はそういう捉え方で解釈すると、矛盾はしているが腑に落ちると思う。この決定について他の方の意見はないか。矛盾はしているが、第2会場の露店は改善が必要だということになる。

委員：23 ページの「スペースには3店舗までが妥当」という、決めつけの文章が気になる。雨だったので、傘がすれちがう所で危なかったとは思いますが、雨でなかった場合は5店舗でも丁度よかったという方が多かったのではないかと思います。この一文の中に「雨の日は」とか文言を追加して、雨の日は3店舗に減らすとかスペースの見直しは必要だと思うので、そのような検証内容に変えてはどうかと思う。

会長：特に雨だったので、雨の日だったことを明示してそれで3店舗だというように修正することについて、いかがか。それでは「スペースには3店舗」の前に「雨の日だったので」を追加する。

委員：「雨の日や悪天候も想定した」ぐらいの文言追加でどうか。

会長：何か具体的にはあるか。

委員：「悪天候の状況も考慮したスペースの配置の方が望ましい」という内容で協議して変えていただきたい。

会長：事務局で委員の考え方を反映した文言を入れていただきたいと思う。他に何か質問、意見はないか。先ほどの弁当の所は保留ということ、それ以外は修正点

を修正したうえで、現地検証結果の最終ということにしたいと思うがよいか。

委員：よい。

会長：事務局には先ほどの議論の中であった内容を反映して最終案の作成をお願いする。

4 協議事項

(1) 今後の花火大会のあり方について

会長：前回、委員の皆様から議論すべき項目として挙げていただいた6つの項目について議論していただいた。項目は①花火大会の規模について、②市の関わり方について、③有料観覧席や堤防天端のチケット所有者以外の立入りについて、④露店について、⑤気象条件等の突発事項へ対応する体制について⑥その他（駐車場、トイレ、ゴミ箱、マナー等）についての6項目。会議では委員の皆様から意見をいただき、各項目に対する方向性を確認した。前回会議を欠席された委員の方には事務局からヒアリングを実施した。各項目に対する方向性、委員の皆様の意見をまとめた資料を委員の皆様に配付している。この方向性を踏まえて引き続き議論を行い、報告書にどのような形で盛り込むか議論したいと思う。各項目について議論するにあたり、改めて安心安全な花火大会の開催のためにはどのようなことが必要であるかということを前提にして議論を進めていく。部分ごとに議論をお願いしたいと思う。まず、花火大会の規模について何か意見はあるか。

委員：規模の拡大については、花火の発数が増えるということになると思うが、去年も段階的にというようにしたので、今回も段階的になると思う。花火の発数が増えると、打ち揚げ時間も増える。去年は2000発で12000人、今年は4000発で20000人ということで、段階的に上がると当然、観客数も増える。今回評価した中で、発数が増えた関係で評価が下がったのがあったのではないかと思う。例えばマナーの問題などがあったので、段階的に上げていくことは必要と思うが、その前に前提として花火を揚げるためには河川管理者の合意、警察には警備計画を出して承認していただく。また、消防や京都府には煙火打ち揚げの承認が安心安全に花火を揚げるための大前提と思う。段階的に花火を打ち揚げる発数に合意すれば、それでよいと思う。ただ、今回もC評価、B評価でも改善する余地があるというように検証会議で言っているので、改善できる見込みがあるのであれば段階的に増やしてもよいと思う。

会長：他の方、何か意見はないか。

委員：今年これだけ雨がひどかったにも関わらず無事に終わったということは、一番評価できていると思うので、来年に向けて実行委員会が多少発数を増やされても安心安全にできるような内容であればよいと思う。

会 長：他に何か意見はないか。

委 員：事故前は 6000 発だったので、そこを目指して段階的に打ち揚げ数を決めるのがよいと思う。

会 長：他の委員の方、何か意見はないか。

委 員：委員とまったく同じ意見である。6000 発に向けて拡大していく方向で、そこから更に上げていくにあたっては安心安全の配慮という部分、C 評価ではなく最低でも B 評価で改善はさほど必要でない段階になって更に上げていく対応が必要ではないかと思う。

会 長：他の委員の方、何か意見はないか。

副会長：段階的な規模の拡大ということでよいと思う。6000 発が 1 つの目安になると思う。安心安全が担保されることが大事だと思う。

会 長：他の委員の方、何か意見はないか。花火大会の規模に関しては、現状維持ないし段階的な拡大、要は安心安全な花火大会が開催され、検証会議での要改善点がきちんと改善されるようであれば、段階的な拡大も認められるという文言で事務局の方に案を作成していただきたいと思うがそれでよいか。

委 員：よい。

会 長：次に市の関わり方について、先ほど段階的に 6000 発、その後の話も出たが、いつまで検証会議を開催していくのかを含めて、あるいは主催なのか共催なのか後援なのかという問題も含めて、市の関わり方について意見を聞かせていただきたいと思う。何か委員の方、意見はないか。

委 員：花火大会の検証会議の前の「あり方を考える会」から関わっていて、最初の花火大会があって、2 回目の花火大会があって、もうそろそろ検証会議はいいのではないかなという気持ちがある。もう実行委員会に任せてもいいのではないかな、ただ、今回 C 評価もあったので、あと 1 年くらいかなという気もしている。

会 長：他の委員の方、何か意見はないか。

委 員：去年も議論になったが、後援とか共催といった方向性は検証会議で決めるのではなく、本来、市と実行委員会、各関係機関が検討していく課題と思う。例えば、経済波及効果とか被害者やご遺族の方への対応とか、そもそも花火大会のあり方についてどうなのか考えていくのがよいのではないかな。その中で市民の意見を聞きながら決める方がよいと思う。検証会議でということではないと思う。それと検証会議については、市が共催となると、当然、市が振り返るとか反省会とかいろんなことをすると思うので、必然的になくなると思う。

会 長：他の委員の方、何か意見はないか。

委 員：市の関わり方について、今まで後援という形で、共催は難しいかもしれないが、安全対策から考えると、様々な規制緩和を含めて、実行委員会が組織しやすいような形で関与する方法を考えてもよいのではないかなと思う。今までの流れの中で

市は後援という形で進められている。実行委員会を含めて例えば、市が関与する内容については、事故があった場合の補償ということも大きなネックになって考えられている部分があると思う。市の1つの事業として、ある程度盛り上げて担保するというのであれば、関わり方の部分についてパブリックコメントを含めもう一度考え直す機会があってもよいのではないかと思う。

会 長：他の委員の方、何か意見はないか。

委 員：検証会議に関して、市の関わり方も含めてなしにするとした時に、これに代わるような機関はやはり必要と思う。前回の第4回検証会議でも触れさせていただいたが、実行委員会はアクセルと同時にブレーキを踏むという役割も持っていないといけないと思っていて、そうでないと安心安全にできないと思う。暴走して何年か後にまた問題が起きることも懸念されるので、仮に市が検証会議の設置をやめるとなった時に、実行委員会にこれに代わる組織があつて、これなら安心安全に継続可能だとなって初めてこの検証会議は必要ないという話になると思う。現状、実行委員会の中にそのような組織があるのかどうか、あるのであれば、このような会議の場にも参加されてしかるべきと思う。実行委員会がアクセルとブレーキを同時に踏める、自走できる組織であると対外的に明確に示されて初めて市がどのように関わっていけるかという話になると思う。

会 長：他の委員の方、何か意見はないか。

委 員：誰かがしつかり気を張って見ていかないといけないと思っていて、もし実行委員会が全部確認されて、市は後援だけという形になった場合、市はどこまで入ってくるのか、その時に事件であつたり何か起こった時にはどういった対応をするのか、例えば実行委員会だけでは対応できないことも出てきたりすると思う。そうすると市としては関わっていくべきと思うし、検証する側としても関わっていくべきと思う。検証会議をこの先もずっと設置しなさいということではなく、この機関でなくても違った形で検証できるような、管理ができるような団体が必要なのではと思う。

会 長：他の委員の方、何か質問、意見はないか。市の関わり方については、事務局の方で、今日出た意見をベースに案を作っていただいて、もう一度委員で話し合うという方向でよい。検証は何らか必要だと、それが実行委員会内部であってもよいが、何らかの形で花火大会を安心安全に継続していくためのフィードバック機関というものが需要であるというのが前提である考え方から入って、委員が言われた市民の意見とか、共催するのか後援するのもも含めて市の関わり方について、事務局の方で各委員の考え方もちりばめて、考えていただきたいと思う。委員の方はそれでよい。

委 員：よい。

会 長：次に 3 つ目の有料観覧席や堤防天端のチケット所有者以外の立入りについて、何か意見や感想はないか。

委 員：今後も引き続き堤防天端の入場規制はするべきだと思う。チケットを持たない人の立入りについて、1 回目の時は確かに堤防沿線の方が見られているのが見受けられたが、2 回目の時は、そんなにゲート 4 から見て見受けられなかった。逆に沿線でない方でチケットを持ってない方が一気に入ってくる場面は見た。観客数が増えるとそういう人も増えてくると感じた。従って、入場規制は必要で、そういう人が入らないように増員していただくなどしていただければと思う。有料観覧席は、去年に何人まで想定して入れるか聞かせてもらったと思うが、多分 1 万人までは入れるのではないかという話があったが、2 年ほど経っているので状況はわからない。今の状態で更に増やすとゲートのところの混雑とか色々なことがあるので、何が適切かというとな難しいと思う。有料観覧席を急激に増やすのは難しいと感じた。

会 長：他の委員の方、何か意見はないか。

委 員：有料観覧席の関係で、チケット所有者以外の立入り、実行委員会の運営上の関係もあり、安心安全に誘導する前提があると思うが、そういう場合を想定するのであれば有料観覧席への誘導の時間を早めて、早く下へ降ろすという方法をとって、後ろの時間を空ければよいと思う。チケット所有者以外の人が立入りという、かなり制約のある書き方になっているが、もう少し柔軟に対応できる方法を考えてもよいのではないかと思う。何もかも立入禁止というのはなかなか難しいと思う。有料観覧席への誘導を例えば 18 時半までにするという形をとってもよいと思う。以前にも話した通り、近隣住民の方の理解を取ったという話を聞いたが、感情的にもう少し掘り下げて考えていかないと、このまま実行委員会の方で開催され、市も後援という形で続くのであれば、永遠に続くものではないと思う。しっかりもう 1 回整理して、実行委員会の方に工夫していただける方法があるのではないかと思う。

会 長：他の委員の方、何か意見はないか。有料観覧席は必要で、それに関してより管理された入場、時間帯をずらすとかより管理されたやり方が必要で、更に堤防天端は人を入れない、隣接している住民には懇切丁寧な説明が必要だという方向で案を事務局の方で作っていただくということでよいか。

委 員：よい。

会 長：次に露店について何か委員から意見はないか。特に露店の場合は、資料 2 の報告書の案、例えば 17 ページにある露店の営業時間をどうするか、つまり、打ち揚げ後も店を開けるのかとか、時間の問題とか、議論が全体になったと思うが、そういうことも含めて露店について最終報告に文言を入れないなど何か皆様から意見をお願いしたい。

委員：露店に関しては実行委員会が 20 時までと決めておられるのであれば、しっかり時間を厳守してよいと思うが、個人の意見としては、延ばしたほうがよいと思う。先ほどの弁当と一緒に帰りに受け取って帰りたい方もおられると思うので、そういう人からすれば多分終わった後も、買いたいのではないかと、終わった後のコミュニティもあると思うので、祭り気分を楽しみたいとかもあると思う。実行委員会でどこまで管理するかだと思う。実行委員会がそういうところまで時間を管理するのであればよいと思うが、そうでなくて早めに切り上げて終わりたいというのであれば、今まで通り、花火打ち揚げ開始前の 20 時までと設定されるのがよいと思う。

会長：他の委員の方、何か意見はないか。

委員：20 時までにするのなら、「20 時までで終了します」というアナウンスをして、観覧者にも 20 時までだという意識を持ってもらうようにした方がよいと思う。第 2 会場にいたが、20 時過ぎまで露店の方もあまり閉店する感じはなかった。時間を守る意識があまりなかったのではないかと感じた。

会長：他の委員の方、何か意見はないか。

委員：今回も火災等の事故がなかったというのは IH とか炭とか、市内業者の方、更には、消防が実施している出店者への安全講習会への参加とかがあってできたと思う。その中で、今回の問題で、人が多すぎるとか、配置とか店舗数とかあると思うので、その点は改善していくべきと思う。時間の延長については、警備上の問題で警察に警備計画を出すのに、花火が終わった後も、もしするとなるとそれなりの警備が必要になると思うので、承認がとれたら延長してもよいと思う。すべての関係機関の合意がとれたらよいと思う。

会長：他の委員の方、何か意見はないか。

委員：経済効果を考えると、露店に関しても店舗数や時間の制限をできるだけ緩和していく方がよいと思うというのがお三方の意見だと思う。確かに花火大会の意義は福知山の経済効果波及というのが期待できるので、できる限り露店の方への規制は縛り過ぎない方がよいという部分もありながら、やはり事故が起こったのは露店ということで、一番大切なのは、花火大会を行うに当たっては、遺族の方への配慮もそうだが、対外的にも福知山はきちんとこういう形で、露店営業に関しても事故のできるだけ起きにくい体制でやっているというのを示す場になると思う。ここに少しでも穴があつたり、管理体制が不十分だと結構致命的なことになると思う。ここに関しては、制限時間にしても露店数にしても一番抑制的であるべきと思う。慎重に議論してそのうえで、例えば明石の歩道橋でドミノ倒しの事故があつたように帰りの時間は人が殺到するので、そこで火気を利用することが、いくら IH や炭といえども、大事故につながりかねないのであれば、やはり露店営業は花火が始まるまでで、抑制的であるべきと

思うし、数についても雑踏が混雑になりかねないという部分があれば制限を加えるべきだと思う。一番よい塩梅、うまい落としどころを練り上げていくという感じがよいのではないかと思う。

会 長：他の委員の方、何か意見はないか。

委 員：御霊公園では、花火が終わって露店の電気が消えて、きちんと時間を守っておられると思った。その反面、広小路の既存のお店の唐揚げ屋さんとかはものすごい列だった。そこが矛盾に思った。事故があった時は河川敷で、今は離れて露店が固まっているので、そここのところは安全な感じになってきたと思っている。

会 長：他の委員の方、何か意見はないか。

副会長：検討の方向性としては、委員が言われたように、ずっと安全に営業ができるようにスペースや配置とかいったことは、引き続き徹底して行うという意見になると思う。緩むと問題が発生しそうな気がするので、徹底してくださいということになると思う。今年出てきた営業時間については、少し延ばしてもよいのではないかと思っていたが、委員が言われたように、もしそうしようとすると警備が引き続き必要で、花火が終わった後、どこまでやるのかということになる。花火が終わっても何時までできるというようにするのは、そんな簡単でもないという認識を持った。

会 長：他の委員の方、何か意見はないか。各委員から意見が出たので、それを踏まえてより安心安全な露店の営業ということで管理された運営が必要だということが大前提で、その中で例えば営業時間であるとか店舗数も報告書にある通り、17 ページに例えば「雑踏対策のため、露店の営業時間と花火打ち揚げ時間を分離させることとあるが、打ち揚げ中も営業を行うことで、御霊公園に人が留まり、花火大会会場付近の雑踏対策として有効であるとの考え方もある」というような様々な考え方があるので、いくつかの案を事務局の方で複数盛り込んでもらって、そのうえで次回の検証会議で議論していくということによいか。

委 員：よい。

会 長：次に気象条件等の突発事象に対応する体制について、何か委員から意見はないか。国土交通省への電話がつながらなかった件は何か回答はあったか。

事務局：警備計画の中に、実行委員会が国土交通省の連絡先を記載はされていたが、当日連絡を入れることがありますというような国交省との調整はされていなかった。特に国交省に事前にひかえておいてくださいというようなやり取りはなかったと聞いている。

会 長：祝日でつながらなかっただけか。ということは、来年度はきちんと国交省にも事前に連絡しておかないといけないということになる。

委 員：実施計画をまずは見直すことが大事と思う。今の実施計画では曖昧な部分があ

って、読み手によって対応の仕方が違うのではないかと思います。市もイベントを開催する際に災害マニュアルがあると思うので、それを参考にして作っていただければよいと思う。例えば現実に警報が出たら中止にすると聞いたが、実施計画には書かれていないので、その点も記入していただくということでよいと思う。市が想定される自然災害で例えば、風水害とか地震とかいうものはまず作っていただいたらよいと思う。新型インフルエンザまでは必要ないと思うが、あってもよいと思う。

会 長：他の委員の方、何か意見、感想はないか。

副会長：前回の会議でも言われていた大会中止の場面、その判断基準、第1次判断の決定という記載があるが、検証の当日にするのかと思って、これを引っ張り出して読んでいたがわからない。これだけ見れば中止ではないかと思っていたが、前の会議でもでていたが実行委員会はきっと中止はしない、相当な時でないブレーキを踏む方向の判断は難しいのだろうと思う。実際は開催して何もなくなっていくてよかったが、実施計画にある判断基準は使えるものなのかどうかと思った。必ず実施されるという思いで当日は来たが、実施されるのか中止されるのかという判断基準は明確に書いておくべきであり、当てはめた時にどういう結果になるのかというのが、よくわからないところがある。今年の教訓はここなのかと思うが、もう少しわかりやすい判断基準を設けたらどうかと思う。今回のテーマは突発事象で想定もしていないことが起きた時、その時どうするかである。マニュアルとか判断基準は、想定範囲内みたいな感じになる。こうなったらこうしよう、そういう想定を超えた事が起きたらどうするのか、実際の事故が起きているのはそういうところだと思う。だからと言って、思考を放棄するわけにはいかない。考えられる手立てをきちんととっておく必要がある。

会 長：他の委員の方、何か意見はないか。参考資料「第4回会議での各項目に対する意見、方向性」の2ページ目。気象条件等の突発事項へ対応する体制のところは前回までの議論の方向性が書かれているが、今日出てきた意見で「実施計画がどのような判断体制になるのか不明確なので、きちんと中止の判断基準がわかるようにする」ということも含めて、実施計画と更なる要改善であるとか、その他気象条件等の突発事象の対応について、事務局の方で案を作成していただきたいと思うが、それでよいか。市に危機管理室があるので、安心安全な花火大会を開催するためにはどのように市が関わられるのかということも含めて作成していただければと思う。各委員の方々、よいか。

委 員：よい。

会 長：最後のその他（駐車場・駐輪場、ゴミ箱、喫煙所、トイレ、マナーなど）について何か意見はないか。

委員：2つの側面からのアプローチが必要と思う。1つは市民リテラシー。マナーであつたり、ゴミの持ち帰り、店舗や商業施設のトイレを使用しないこと、駐車場についてもマナーを守るなど、市民が花火大会を作り上げていくという意識がないと、お互い注意しあつたりというのもしづらいと思う。他人事ではなく、自分事として市民一人一人が花火大会に限らずではあるが、教育のまち福知山なので、花火大会について啓蒙していく、呼びかけていくというのがマインド的な側面としてあると思う。マインドというとその人の考え方に左右されてしまうところがあるので、もう1つは属人的ではなく、仕組みが必要だと思う。仕組みとして、店舗でトイレをしないとか、ゴミを持ち帰るというものを立て看板であつたり、チラシの中に入れていくとか、車でアナウンスをして昼間、市内を巡回していくとか、市民に浸透させていく仕組み。この2つをパッケージとして、1つのコンテンツ、こういうモデルでやれば、市民教育もできるし、安心安全な形で花火大会が実行できるという体制を構築していくことが課題だと思う。

会長：他の委員の方、何か意見はないか。

委員：これから段階的に発数を増やしていくと当然、人も増え他の問題も起きてくると思う。早めに何か解決する必要があると思う。委員が言われた方向性が一番だと思うが、この問題は福知山の花火大会だけではないと思う。他のところではどのように対策されているのか参考にするのもよいと思う。

会長：他の委員の方、何か意見はないか。

委員：今のトイレとか駐車場の件は、福知山マラソンがあるので、その時に実証できると思うので、参考にしたらよいと思う。

会長：他の委員の方、何か意見はないか。まず花火大会を見に来られる方のマナー向上のために市民に対して何ができるか、更に外から来る人に何ができるのかということ。そのあと駐車場や駐輪場、ゴミ箱、喫煙所などの整備について改善する余地がある。トイレについては、増設やグレードアップという話がある。それらを含めて何か改善する余地がある点について案を事務局の方で作成していただければと思う。各委員の方はそれでよいか。

委員：よい。

会長：6つの項目について方向性が固まった。これを受けて事務局で案を作成していただきたい。意見交換はこれで終了する。全体を通して何か意見や感想はないか。

副会長：当日、商工会議所とか公共的な施設のトイレが、公衆トイレに代わるものとして利用できたのか、できていないのか。仮設は嫌だということもあるかもしれないので、建物の中にあるトイレを使ってもよいと言えるのかわからないが、そういう方法もあると思う。

会 長：休日なので開いていないところもあると思うが、誰でも使える公的機関を含めて地域が総力でトイレの確保に動いていただければと思う。他に何か意見はないか。

委 員：資料 2 の報告書については、この後、議論はあるか。

会 長：この次にある。よいか。

委 員：よい。

会 長：協議事項の（1）はこれで終了する。

（2）花火大会検証結果報告書（案）について

事務局：資料 2 に基づき「花火大会検証会議報告書（案）について」説明

会 長：事務局より説明のあった花火大会検証会議報告書（案）について、ある程度項目ごとに分けて意見交換を行いと思う。1 ページ目の「はじめに」について何か意見はないか。

委 員：なし。

会 長：次に 3 ページと 4 ページ「検証会議の開催等経過」について何か意見はないか。

委 員：なし。

会 長：次に 5 ページから 11 ページの「議論の経過」（1）から（5）について何か意見はないか。

委 員：うちあげのあげの字は「上」、「揚」どちらが正しいか。

会 長：どちらなのか。

事務局：実行委員会が「上」を使っておられて、実行委員会から出てきた文章をそのまま転記したため、両方の表記が出てきてしまっている。問題なければ検証会議としての報告書になるので、「揚」に修正させていただく。

会 長：漢字を統一するという事で、上下の「上」ではなく、「揚」にするということではよいか。

委 員：よい。

会 長：表記を統一するようお願いする。

会 長：他に 5 ページから 11 ページで何かないか。

委 員：なし。

会 長：11 ページの（6）から 18 ページで何か意見はないか。

委 員：内容面では特に問題はないと思うが、日本語表記の部分で相違があった。まず 12 ページの 5 番目の項目で、「突発事象へ対応する」は、「突発事象に対応する」ではないかと思う。13 ページの堤防天端の個別意見、悪かった点の 2 点目に「花火を見入っていた」は「花火に見入っていた」について、「を」から「に」に変えた方がよいと思う。次に 17 ページ「現地検証結果等のまとめ」のここ

ろで、C 評価をつけた堤防天端についての段落で、「花火を見入っていた」も「花火に見入っていた」に変えた方がよいと思う。アンケートのところで、下から 6 行目に「来場者アンケートでも」に続いて 3 件のご意見を掲載されているが、この意見の部分については「」をつけて表記した方がよいと思う。

会 長：日本語表記の修正ということであるが、委員の方々、修正でよいか。

委 員：よい。

会 長：事務局に修正をお願いします。11 ページの (6) から 18 ページで何か他に気付かれた点等ないか。

委 員：19 ページ (5) の「突発事項へ対応する」も「突発事項に対応する」に変更した方がよいと思う。

会 長：他に何か委員の方々、気付かれたことはないか。

委 員：12 ページの 5 では「突発事象」と書いてあるが、後の所は「突発事項」と書かれている。統一されていないがどうなのか。

会 長：「事象」でよいか。

委 員：よい。

会 長：「事象」で統一をお願いします。何か他に気付かれた点はないか。

委 員：14 ページの下の個別意見のところ、・で始まっている所は最後に「。」が全体的についていないが、ここだけ最後に「。」がついている。

会 長：適宜修正をお願いします。他に何か、表記も含めてないか。

委 員：15 ページの一番上の四角のところ「などの意見が出された。」は、いらないのではないか。これはどこに続いているのか。

会 長：見た目で分かりにくくなっている。修正をお願いします。他に何か意見はないか。
全体で見るのはこれで締めさせていただいて、もう一度見直していただいて、
気付かれた点があれば、直接、事務局に言っていただくということでしょうか。

委 員：よい。

5 その他

会 長：これまでの協議を踏まえて、委員の皆様から意見はあるか。

委 員：ない。

会 長：ご意見がなければ、協議を終了する。

【次回会議】第 6 回花火大会検証会議は令和 7 年 12 月 3 日（水）を予定。

6 閉会